

結い YUI

山梨県人権擁護委員連合会

事務局発行

甲府市北口一―二―一九

甲府地方事務局

人権擁護課内

「結い」とは田植えなどの時の助けあいのこと。土くさくあたたかい言葉です。

平成二〇年度定時総会開催

《県連・各協議会で》

五月二三日、一六三名の委員の出席を得て山梨県人権擁護委員連合会の定時総会が「ベルクラシック甲府」に於いて開催された。

総会に先立って、県ネットとの共催による人権啓発講演会が開かれ、常徳寺住職の小林是綱氏が「仏教からみる人の平等と役割」と題して講演された。この中で小林氏は、「仏教はお釈迦様が階級制度等、差別を否定したところから始まった。『青色青光、白色白光』という、あるがままの姿に生きるところに差別は生まれない。互いに助けあうボランティア精神」『結い』の精神で生きることが大切」と説かれた。また、「人権とは互いに互いの生き方を認めあうことである」と締め括られた。

昼食・ピアノ三重奏の鑑賞

を挟んで、午後から開かれた総会では、表彰に続き議事に入り、これまで人権週間に行ってきた啓発活動の人権擁護委員の日に実施すること、標語の募集を春に変更すること、「人権の花運動」実施校を都留協議会で一校増やすこと、県連の研修会を二回に減らし、協議会・グループの研修を充実させることなどが承認された。

また、新役員は理事二名が交代したほか、全役員の内三時半に終了した。

この外、各協議会とも順次総会が開催された。



甲府協議会では四月一日、甲府市総合市民会館において総会が開催された。一九年度事業・会計報告、二〇年度事業・会計予算などが提案され、原案通り了承された。都留協議会の総会は四月一日。所定の議事が滞りなく終了後、午後二時より講演会が開催された。

講師は保護司で自立支援相談員の小林英明先生。演題は「問題を抱える子供達の支援について」であった。

峡南協議会では四月二一日に早川町民会館において開催。(会場は各町持回り) 辻町長の歓迎の挨拶などに続いて、一九年度事業・会計の報告と二〇年度事業計画などが了承された。

また今回は、人権教室活動の基盤をより強固なものとするための「人権教室委員会設置要領の制定」が全会一致で可決された。

「人権擁護委員の日」

「今年も啓発活動も実施」

今年六月一日が日曜日に当たったので、地域の実情に合わせて、これ以外の日に実施したところが多かった。また、総会での決定を受けて、例年人権週間に行われていた啓発活動も加わったため、場所や時間・方法などにも工夫が凝らされた。

駅頭啓発を行ったところでは、早朝、乗降客の多い時間帯に実施。啓発物品のポケット時刻表は大変好評で、どこでも短時間のうちに配布が完了。素早い啓発活動ができた。竜王駅では新装された駅舎前での初の啓発活動で、参加委員も大張り切りであった。

一方、特設相談所も例年通り県内全域で開設された。相談件数は四二件と、ほぼ昨年並み。内容も住居・生活の安全に関わる相談が最も多く、地域の人間関係・家族間のトラブルなど、昨年同様身近な悩みを抱えている人が多い様子が窺えた。

相談者がゼロという相談所もあったが、グループ会議などで情報交換・意見交換をするなど、日頃なかなかとれないコミュニケーションを取り合ったり、ボランティア委員などからノウハウを学ぶなど学習会を行い、有意義な一日であった。

咲かそう「人権の花」

「今年限りの学舎の庭にも」

今年も五月末から六月にかけて、県内一七校で「人権の花」贈呈式が行われた。未実施校の多い都留協議会は例年より一校多く五校、甲府協議会八校、峡南協議会四校の実施であった。

これとは別途に、上野原市では大鶴小で市と地元委員による独自の花運動が行われており、「人権の花」もしっかりと地域に根付いてきた感がある。

五月二〇日、大月市瀬戸小学校で行われた贈呈式は、同校四二名、上和田小一〇名の児童が集まり、二校合同で実施された。大月市は、少子化・人口減少の影響からここ数年小中学校の統廃合が進み、瀬戸小・上和田小は来年度七保小に統合されることになっている。

式には藤巻連合会副会長、酒井大月支局長、正木係員と地元委員全員が出席、「あゆみちゃん」も甲府から駆けつけ、にぎやかで楽しい式となった。

式に先立ち「人権教室」も開かれ、学校担当鈴木委員の人権メッセージの後、ビデオ「プレゼント」を視聴、両校代表がそれぞれ感想を発表し合った。短く凝縮された学習会ではあったけれど、子供たちは「人権の花」の意図をよく理解したようで、平板なセレモニーとなりがちな贈呈式を印象深いものにした。

両校の校舎は今年限りでその役割を終える。しかし、この夏一つの学舎を彩る「人権の花」は、いつまでも子供たちの記憶に残るであろうし、やがて一人一人の心の中に美しい「人権の花」が咲くであろうと、少々感傷的気分も交錯する贈呈式であった。

「人権教室」各地で多彩に

昨年度末、二つの人権教室参観の機会を得た。峡南協議会の下部中学校と、甲府グループの城北幼稚園で開催された教室だ。

三月六日、下部中学二年生一六人を対象とした教室は、武安人権課長・矢部颯沢支局長も出席、実行委員の大多数が参加するという大規模なものとなった。

まず、赤池委員ら三人の委員が授業をリード、「私たちの



人権宣言のビデオを視聴。その後グループによる話し合いに入る。

と、参加委員全員がグループに加わり、自己の経験を披露するなど、盛り沢山の内容であった。

授業の終盤、生徒たちの「人権宣言」がカードに書かれて一枚一枚黒板に貼付されていく。その手際の良さ、

息のあったチームプレーには感心させられた。

最後に、委員が一人ずつ生徒たちへのメッセージを読み上げたが、その姿をじっと見つめる生徒たちの熱いまなざしが、強く心に残った。

峡南協議会が「人権教室実行委員会」を組織、全体で取り組んでいることは周知のこと。赤池委員は、「委員誰もが



「人権教室」が、府グループのおなじみの人権パレードで開催された。劇「動物村の大きなかぶ」

は神宮寺委員苦心の脚本で、出演者全員の熱演に、園児の目は釘付け、「はじめは止めよう」「仲良く力を合わせれば何でもできる」といったメッセージは十分に伝わったようだ。

園児二一〇名という大人数を前にしての開催に当たり、何度も打ち合わせや練

委員から一言

雑感「子供の目」

長谷川 利行
(南アルプス市)

過日、「人権の花」運動展開の際、子供たちの前で話をする機会を得た。

「いのちの大切さ」、「思いやりの心」など、分かりやすく、然も、短時間に話そうと焦る私とは逆に、子供たちは透き通る様な澄んだ目で私をじっと見つめ、一言でも聞きのがすまいと真剣に耳を傾けてくれた。

久し振りに味わう、心地良い感動であった。同時に、この子供たちの中に「はじめ」など、絶対に存在しないことを確信した一時でもあった。

習を重ね、小道具類も工夫を凝らしたとのこと。

演劇形式の「教室」は、幼児期の啓発には最も効果的であろう。また自作自演の啓発劇は新しい試み、この意欲的な人権教室は高く評価される。グループ全員が一丸となって創り上げた教室に、拍手を送りたい。

新年度に入り、都留協議会でも新しい動きが見られる。各地でここ数年熱心に取り組まれてきた出前授業も、いよいよ熟成され新展

開の兆しも。子供たちの心に人権の種をまくという重要かつ難事業も、委員の知恵と力の結集で、より上質なものとへと進化を遂げつつあるようだ。

関東ブロック大会開かれる

六月十九日、静岡市で関東ブロック大会・研究大会が開かれ藤巻副会長以下十二名の委員が参加した。

「子どもの人権」をめぐるの講演の後、四分散会に分かれて意見交換を行った。

退任された委員の方々

平成二〇年七月一日付で次の委員の方々が退任されました。在任中のご活躍に敬意を表し、今後のご健勝をお祈りいたします。(敬称は略させていただきます)

- 森本 清壽 (甲府市)
- 北井 昭子 (甲州市)
- 遠山 幸夫 (西桂町)

編集後記

新年度、人権擁護課は河住係長、前田主任を加えスタッフを切りました。「結い」のスタッフは昨年と変りません。より良い紙面を目指します。

